

## 教育方法24 戦後教育方法研究を問い直す

### —日本教育方法学会30年の成果と課題—

I	戦後教育方法研究と21世紀教育		
一	教育方法研究の分化と総合 —学会三十年の歩みから—	恒吉	宏典
二	教科内容・教材研究の復興を期す	柴田	義松
三	私の視点と三つの提言 —山本典人の教育実践を中心として—	中野	光
四	子どもの学校参加と授業	藤田	昌士
五	教授学の知の変革を求めて	吉本	均
II	いま求められる授業研究のあり方		
	—戦後授業研究の成果と課題—		
一	戦後授業研究と学校教育をめぐって	小田	切正
二	教科研究とかかわった授業研究	土井	捷三
三	学習集団の立場から検討する	山下	政俊
四	課題と展望	杉山	明男
III	「個性化」重視の状況における集団とは何か		
	—集団観と教育実践の課題—		
一	個性化と新しい協同の可能性	奥平	康熙
二	教育実践における集団についての検討 —〈組織〉と〈関係〉、[制度]と[社会]、支配と協同—	浅野	誠
三	授業(集団)における表現の組織化(個性化)	八木	英二
四	人権の共同の集団観を—ポスト集団論を越えるもの—	折出	健二
IV	いま、なぜ問題解決学習なのか—戦後学力論の成果と課題—		
一	いま、なぜ問題解決学習なのか	清水	毅四郎
二	「問題解決学習」論をとらえる視点	臼井	嘉一
三	生活表現にねざした個性化教育の立場から	佐藤	広和
四	激動する社会における問題解決学習の意義と課題	市川	博
V	教育課程の編成原理を問い直す		
	—遊び、体験、記号、身体知など—		
一	カリキュラムの編成原理をめぐるポリティックス	長尾	彰夫
二	21世紀世界に向けての教育過程の改造	加藤	幸次
三	教科(内容)構成原理を問い直す —編成論理の解析と改編構想の提示—	今野	喜清
四	課題と展望	安彦	忠彦
VI	学校教育とメディアリテラシー—戦後メディア教育の展開—		
一	コミュニケーション・ツールとしてのマルチメディア	小柳	和喜雄
二	学校教育改革運動としてのメディア教育	鈴木	克明
三	子どものマルチメディア表現力を育てる	田中	博之
四	課題と展望—メディアが教育や研究をどう変えるか—	水越	敏行
VII	子ども観を問い直す		
	—おとなとの関係性において子どもの可能性をさぐる—		
一	〈おとな—子ども〉関係をとらえ直す	高橋	勝
二	実践における子どもと大人の相互主体関係	上野	ひろ美
三	子ども観を問い直す —おとなとの関係性において子どもの可能性をさぐる—	近藤	郁夫
四	提案の実践的課題は何か 日本教育方法学会の30年—これまでとこれから— 学会のあゆみ ゆかりの人々からのメッセージ 人間全体との取り組みを 学会発足の意義に即して 教育研究の分化と総合 高等教育における教育方法改善研究を 研究者の世代交代期に思うこと 教育方法学研究への再出発 軍事と教育との関係について 教育の事実、実践に立脚する教育方法研究を 方法研究の展開	小川	博久
		上田	薫
		大槻	健
		川合	章
		坂本	昂
		佐藤	三郎
		佐藤	正夫
		城丸	章夫
		廣岡	良蔵
		細谷	俊夫